

令和2年度 第1回石狩市叢書発刊編集委員会

■日時：令和2年8月25日（火）13：30～

■場所：石狩市役所3階 庁議室

■出席者：下記表のとおり ■傍聴者0名

委員・臨時委員		職員（事務局）	
役職	氏名	所属	氏名
委員長	田岡克介	総務部長	及川浩史
委員	石橋孝夫	総務部総務課文書・統計担当主査	森本栄樹
委員	村山耀一		
委員	志賀健司		
委員（臨）	三島照子		

- ・会議次第1：開会
- ・会議次第2：委嘱状交付
- ・会議次第3：委員長の選任
田岡委員を委員長に選任（全員一致）
- ・会議次第4：議題（資料に基づき事務局で説明）

【田岡委員長】

頁数の目安は200頁くらいか。

【事務局（森本）】

100～150頁と思います。本のサイズも決めておいた方が良いでしょう。

【田岡委員長】

決めておいた方がいい。浜益の自然は、図とか写真がある。叢書は、大体形式同じだと思う。200頁を目途に、並べたときに叢書になるようにすべき。基本的に、論文と違うのは、読んでいただけるものを作らなければ駄目だと思う。言葉が難しければ説明を書けばいい。

【事務局（森本）】

基本的に、今ある原稿に絵とか写真を組み入れるのがベースと考えています。

【三島委員】

ルビはどうするつもりなのでしょう。白老の叢書は写真付きで、全部ルビを振っている、おそらく小学生高学年が読めるようにして分かりやすくなっている。

吉岡さんの文書は、漢字にルビが振っていなければ、理解出来ない面があると思います。

漁の道具自体が何か分からないため、注が必要かなと思います。注も結構入っていると思いますが。

【志賀委員】

ルビを振ったところでも小中学生には難しいところがあると思います。例えば、資料を付けて、また要所に、当時の記録はこんな感じだと絵もあっても良いかと思います。

【石橋委員】

注を付けるならば、編集を行う人を置いて行う方がいいのか。普通の方が見て「これは要るだろう」みたいなものを書いてもらい、それを誰かに解説してもらう方法もあるのかと思います。

【三島委員】

叢書の基本的な考え方について整理していく方がいいと思います。

【事務局（森本）】

叢書の対象範囲、年齢層をどうするかであります。吉岡さんの原稿は、大人向けの原稿になってしまふということです。

【田岡委員長】

ルビは大丈夫だと思います。説明において、田中さんにお問い合わせの方法はどうだろうか。

【村山委員】

私の知っている情報では、資料を拡充するとか何か協力を得ることは、困難な状況と受け止めています。

【田岡委員長】

説明が書ける人は、誰でもという訳にはいかない。また、誰かに頼むのではなく、気が付いたら書き足せば良いと思う。

【事務局（森本）】

小中学生も読めるようなことが基本でいいでしょうか。

【田岡委員長】

今回は年齢層に拘るより、叢書の出発点が「石狩のサケ」で、今回に限り、すなおにそうすべきと思う。

校正で追記する程度で、出来るだけ原稿に忠実にすべき。何かあれば最後に書けば良い。吉岡さんの原稿、その時代の大変さ、大切な石狩のサケ史を書いている。この原稿の修正や追記は無理と思う。

【村山委員】

中学生も読めるようにするには、吉岡さんの原稿は、文書、用具や道具等の解説は、かなり子供達や初心者に分かるような言葉に変えて表している。一つの文書をそのまま優しい言葉で書き直すのか、それとも、優しくするため、文書の量を少し減らすとか、吉岡さんの気持ちをどの程度表わすか。

【事務局（森本）】

吉岡さんとのやり取りでは、いしかり暦のサケとかニシンに関わる部分を、この委員会で選定させていただくことに了解をいただいております。基本的に、吉岡さんは原稿を修正するイメージを持っていないと思われ、このまま使用されるイメージを持っていらっしゃると思います。

【三島委員】

よく見ると、吉岡さんはとても親切で、分からないのだろうと思うところは、注を置いてありますし、ルビも振ってあります。そのままでもいいのではないかと考えております。

【事務局（及川）】

ルビが振っていることですのでごく味がある、手を入れることにより雰囲気ガラッと変わってしまうのはどうかと思います。

【事務局（森本）】

今回は、「石狩のサケ」であり、吉岡さんの気持ちをくんで、吉岡さんの原稿のまま活かしていくことでよろしいでしょうか。

【田岡委員長】

次回以降は、出来るだけ読み物にする。データや資料を含めて。

【石橋委員】

校正の段階で問題があれば、チェックしていただければと思います。

【事務局（森本）】

あとは写真を追加で入れるくらいだと思います。

【石橋委員】

表現的に使用できない部分があるかもしれないので、その辺はチェックしていただき、問題があれば、付け加えるという所が出てくると思う。あまりないと思いますが、出版後にクレームがないようにと思っております。

【田岡委員長】

例えば、飯炊き女という言葉は、歴史の事実があり、言葉としても正確であるが。

【石橋委員】

印刷に関わっている人のフィルタを通した際、「ちょっとこれは」とひっかかる場所があるかも知れないので、気を付けて読んでもらう必要がある。

【三島委員】

断り書きで処理出来ますでしょうか。現在は使われていませんという感じで、違いますでしょうか。

【田岡委員長】

読む世代によっては、全然何のことだか分からない世代があり、実際に自分が使った言葉として話している言葉で使ったというのもある。

【石橋委員】

いしかり暦の研究の時に、その辺のところは直しているはずであり、大きな問題は無いと思っております。ただ、年数は経過しております。

【事務局（森本）】

基本的な考え方は、今回は限定的とし、今後は対象範囲として、小中学生が読める形で読みやすいものを作る、本の分量はA5版で200ページ程度が良い、ただし、例外はあり得るということでもよろしいでしょうか、印刷部数や配布方法は別に考え、販売についてはどうでしょうか。

【三島委員】

小学生は1年生から6年生までおりますが、高学年が対象ですか。

【事務局（森本）】

高学年の方が良いと思います。一巻目は小中学校に配布したいと思っております。販売についてはどうでしょうか。

【田岡委員長】

販売することに抵抗感がありますか。予算の問題はどうだろうか。

【事務局（森本）】

さっぽろ文庫は、インターネットで公開しており、読めるようになっている。

【三島委員】

石狩町史も販売している。

【田岡委員長】

石狩百話は記念品。値段付けて売るべきだと思う。値段付けないと読まない。市が出版するため利

益を出す必要は無いと思うが。

【事務局（森本）】

販売する方向で金額は今後協議し、対象範囲や体裁は、今確認したとおりに進めさせていただきます。本の構成は、資料のとおり、吉岡さんの原稿はいしかり暦の中の「サケ漁とニシン漁」を選定し、今後、校正で詰めていきたいと思います。はじめに、田岡委員長の挨拶、吉岡さんの略歴と考えております。

【田岡委員長】

委員長の挨拶は不要。なぜ、叢書を発刊したのか、今後叢書に期待するもの、こんな思いでいますといったことを最初に置くべきである。

【三島委員】

叢書発刊の意図や今後の方針などは、誰が書くのでしょうか。

【田岡委員長】

私が書きます。

【事務局（森本）】

吉岡さんの略歴については、どうでしょうか。

【三島委員】

吉岡さんに書面で送り、略歴を確認した方がいいと思います。

【事務局（森本）】

了解しました。

【三島委員】

以前聞いたところ、北海道で一人か二人しか貰えない勲章を貰っている。吉岡さんの性格からここを省略する可能性があるのでは、その辺は確認してほしい。

【事務局（森本）】

吉岡さんの生まれた石狩の時代はどうでしょうか。

【志賀委員】

私は必要と思います。広く書く必要は無いと思いますが、最初の方で言ったように、この原稿のままということは、私は良いと思いますが、これだけがポンと出ても、何のことも分からないと思います。

【田岡委員長】

それについては、私の方で書こうと思っている。

【事務局（森本）】

田岡委員長の方で書いていただけることでよろしいでしょうか。印刷に当たり、原稿と写真を一緒に入稿する必要があると思いますが、写真や図の原本は吉岡さんが持っているのでしょうか。

【石橋委員】

吉岡さんが持っていると思います。

【事務局（森本）】

今の新型コロナウイルスの現状下、自宅に行くことは難しいので、保有する原本をそのまま印刷会社へ渡し、印刷が難しい写真や図については、再度、私達も含めて、吉岡さんや北大から入手するなど考えることとします。

【志賀委員】

あと、地図を是非入れて欲しいと思います。

ここで出て来る地名が、どこのことをいっているか分かるようにということです。

【石橋委員】

それはつukらないといけないかもしれない。

【三島委員】

吉岡さんが書いたものだったら多分、探せば持っているかも知れない。

【田岡委員長】

石狩の上貞寧と下貞寧とかであり、見ても分からない人がいると思う。

【三島委員】

石狩川に中州があって吉岡さんが書いたものがあるかもしれないので探してみます。志賀委員のイメージは、昭和20年くらいの地図ですか。

【志賀委員】

古い地名もそうですが、現在の石狩市の中で、ここだと分かるものです。

【田岡委員長】

現在の石狩市の上へ書ければよい。地形が全く変わってきているから、石狩川の形が全然違うからね。

【事務局（森本）】

現代の地図の上に載せていくことができるか。印刷会社が決まりましたら確認してみます。また、航空写真も含めて確認してみます。最後に、あとがきはだれが書きましょうか。

【田岡委員長】

一番苦労した人が書けば良い。事務局が書くべきと思う。

【事務局（森本）】

役割分担させていただきましたので、今後、契約ののち、原稿を印刷会社に入稿し、あわせて地図を確認し、また、田岡委員長に書いていただくところもありますので、これらを整理し、出来上がったものから、各委員に確認していただく。

絵や写真や図面が出ないといったものが出てくる可能性がありますし、北大の許可を受けることがあると聞いており、各委員に見て意見をいただき、進めていきたいと思えます。

第2巻目以降の発刊であります。出来れば、1巻目は令和3年度発刊を目指しておりますが、財源として、3年間の事業として補助金を付くものがあります。

【田岡委員長】

補助金付きであるが、販売は可能なのか。

【事務局（森本）】

全体収入から、販売金額を差し引く形であったかと思いますが、確認します。

出来れば、補助金を活用し、3年程度財源確保し、2巻目、3巻目が発刊できるよう、テーマを決めながら進めていきたいと思えます。

【田岡委員長】

サケ由来という表現で、石狩のサケにまつわる話しを書いており、今、60頁から70頁まで進んでいる。例えば、サケの切手がどうゆう経緯で出てきたのか、そういった事を集めて、今書いている最中です。サケに関わる多少は文献に出て来るような、江戸時代の話とか出ているが、出来るだけ分かり易く、いつ原稿が出来上がるかな、と思いつつ、そのつもりで書いています。

【事務局（及川）】

ソフトボールといったテーマなど色々ありますので継続して進めていきたい。

【田岡委員長】

実際自分で書いているが、あと何歳まで書ける力があるのかを考えると、殆ど文書にならない。直しても直しても毎日進まないで。まとめる集中力が殆ど無くなっている、今書かないと、もう書けないと思っっている。

ソフトボールだって、あれだけの資料があり、石狩のソフトボールが跡形も無くなるというのはどうだろうか。田中さんに書いてもらいたいものが沢山ある。

石橋さんには、49号遺跡、石狩のある意味原点と思う。発掘した調査報告書では、今読んでいても分からない。厚田や浜益も誰かに書いてもらわないと駄目だ。

【事務局（森本）】

発刊順番と発刊年次を決めれば、書く時間も確保できます。

【三島委員】

できれば49号遺跡だけでは無くて、石狩の考古学で、田中先生ですが、高岡など一生懸命議論してきたものがあります。

49号の前の遺跡も、49号だけで200頁になるならそれはそれで良いのだけれど、その前の方です。

【田岡委員長】

石橋さんに書いてもらえば。

【石橋委員】

田中さんの本にある石狩川河口、石狩市内のサケ漁の資料集は、未だ校正はしていないが、資料入力はしている。2階の倉庫にあった資料だが、石狩川は、サケ漁広報誌、題名だけは知っている。明治から終わりまで、内水面のサケのものがあるが、これはかなり膨大である。

【田岡委員長】

行政史はどちらかというとし誌になれる。叢書はそこに人が出てこない駄目だと思う。生きていた人や現にその自然をどういう風感じたか、やはり、子供達に分かりづらいことを分かる様に、相対的にまとめてなければならない。

例えば、「この土器は」という以前に、土器の背景全体を書かなければならない。やはり、そこに人がいるように。行政史は読みたくなる。何年何月に鎌倉幕府が出来たといったテストにできるようになってしまう。できるだけ生きた歴史、庶民の歴史といったもの。行政史は、基本的に議会の提案者と履歴書を見れば石狩の流れが分かる。そう考えている。

【志賀委員】

私は自然のことを色々出したいなと思います。自然、海浜植物中心に、その辺りで何か出したいと思っています。

【田岡委員長】

最初から何冊出版すると決めるより、出す努力はしていくべきである。今、大きな時代と多くの時代をまたがる時にいるような気がしている。だから、昭和を含めた明治以降、それを次の世代に繋いでいかないと駄目だと思う。資料も少しずつ集めている。

【事務局（森本）】

このテーマは2回目以降議論いただきたいと思います。今年度、原稿が出来上がり、確認いただき

ながら、色々とぎっくばらんに話をさせていただきたいと思います。

【田岡委員長】

市誌でもう一冊作って完了という計画があったと思う。それは資料集で一つは年表で石狩市年表。もう一つは村山家文書を中心とした石狩の文書類を出すことで昭和40年代から始まったと思う。石狩市誌も5年か10年に1回ずつ、編集委員も書く人もいない。資料集だけは、原稿を書く人がいなくても載せるのは良い。あの時代は市誌にしないと残らなかったが、今ならいくらでも残し方がある。

【三島委員】

市誌は残しておいて欲しいです。他市も市誌はつくっています。

【村山委員】

かなり読まれてますが、新たな発掘でなかなか難しいという、どれが重要かという判断が、かなり色々な面では出ている。我々の郷土研究会でかなり読んできている。例えば、最近、嘉永から安政、文久くらいの石狩御場所、勘定町があり、今読んでいますが、石狩開拓よりも前と後の色々な物の出し入れ、そういった一覧が文書としてあります。今、私達の仲間で、文書は縦書きで漢数字を使っていますが、それを読みやすく、表にして比較ができるようなものを作っている。いわゆる石狩開拓の前後の比較という資料はまだ出てなく、後でそれが必要かと判断していただければいいと思っている。

【事務局（森本）】

今回は、印刷会社に入稿した原稿が出来上がって来る時だと思えます。ご案内差し上げて開催します。

令和2年10月12日 議事録確定

石狩市叢書発刊編集委員会 委員長 田岡 克介